

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2012年 10月 21日

派遣者氏名（専門分野）	林 葉子 （ 女性史 ）
-------------	--------------

派遣期間	2012年 7月 20日 ～ 2012年 9月 20日
------	-----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
イギリス	グラスゴー	Glasgow Women's Library

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

Glasgow Women's Library は、一般市民に開かれた図書館で、入館のための特別な手続きは必要なく、鞆の持ち込みもできる。

派遣者は、本図書館のホームページを閲覧した際に、派遣者の研究に必要な資料（Josephine Butler Society の資料）が本図書館に所蔵されていることを知ったため、本図書館のホームページに記された連絡先メールアドレスに、資料の利用目的と利用希望日について説明したメールを事前に送った上で、利用当日にも受付で、自分の研究内容と資料との関係を口頭で説明し、閲覧の希望を伝えたところ、利用が認められた。

派遣者が閲覧した資料は、一般利用が可能な部屋とは別の場所に保管されている。資料のカタログなどは用意されていないため、口頭でコレクションの概要についての説明を受けたあと、その中から、閲覧を希望する資料について口頭で伝え、それを閲覧場所に運んでもらう形である。そのように利用の申請は、書面ではなく、もっぱら口頭で行われた。

館内ではデジタルカメラの使用が可能である。資料は現物を利用できるが、閲覧の際には、図書館が用意している手袋をはめる必要がある。資料は専用の箱に入れられており、そこから資料を取りだして調査を行う。閲覧場所には大きな机があり、部屋が明るいのでフラッシュなしで撮影するにも支障はない。

図書館の規模自体はあまり大きくなく、利用方法などはマニュアル化されていない印象であるが、受付の人の対応が丁寧なので、調査はスムーズに行うことが可能だった。入館して閲覧希望の資料を出してもらったまでの間に、ハーブティーがサービスで振る舞われるなど、一般の図書館にはないアットホームな雰囲気の中で調査を行った。

本図書館には、グラスゴーで行われるイベントを中心に、女性史や女性学に関わりのあるイベントのパンフレットが多数置いてある。また、女性史関連のウォーキングツアーも企画されており、図書館としての機能だけでなく、日本における女性センター（男女共同参画センター）のような機能も併せ持っていると考えられる。